

社会安全学部における Tutorial English の試行的 実施にかかる報告 : アンケート結果を中心に

その他のタイトル	A report of a pilot implementation of Tutorial English classes at the Faculty of Safety Science : a two-part survey based on questionnaire-results
著者	山本 英一, 土田 昭司, 小澤 守, 高橋 智幸, 越山 健治, 山根 繁, 佐々木 保幸, 池永 直樹
雑誌名	社会安全学研究 = Safety science review
巻	2
ページ	127-138
発行年	2012-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/00018559

社会安全学部における Tutorial English の 試行的実施にかかる報告¹⁾

～アンケート結果を中心に～

A report of a pilot implementation of Tutorial English classes
at the Faculty of Safety Science:
a two-part survey based on questionnaire-results

関西大学 外国語学部 山本 英一 Faculty of Foreign Language Studies, Kansai University Eiichi YAMAMOTO	関西大学 社会安全学部 土田 昭司 Faculty of Safety Science, Kansai University Shoji TSUCHIDA	関西大学 社会安全学部 小澤 守 Faculty of Safety Science, Kansai University Mamoru OZAWA	関西大学 社会安全学部 高橋 智幸 Faculty of Safety Science, Kansai University Tomoyuki TAKAHASHI
関西大学 社会安全学部 越山 健治 Faculty of Safety Science, Kansai University Kenji KOSHIYAMA	関西大学 外国語学部 山根 繁 Faculty of Foreign Language Studies, Kansai University Shigeru YAMANE	関西大学 経済学部 佐々木 保幸 Faculty of Economics, Kansai University Yasuyuki SASAKI	関西大学 環境都市工学部 池永 直樹 Faculty of Environmental & Urban Engineering, Kansai University Naoki IKENAGA

Summary

This paper summarizes participants' evaluations of the Tutorial English course offered by Waseda University International Corporation, as a part of a pilot English program being considered by the Faculty of Safety Science, and implemented from February 21 to March 5, 2011. The first part presents the results for the Tutorial English course in particular, with the second part showing those for learning in orthodox English courses. Both sets of results were obtained by means of questionnaires administered to the students participating.

Keywords

Tutorial English, English education, oral communication

PART 1

1. はじめに

関西大学では、学長のイニシャティブのもと、学生のコミュニケーション能力（日本語・英語）、および数学的思考能力の向上を目指している。英語の基本的運用能力については、早稲田総研が展開するチュートリアル・イングリッシュの利用を視野に入れながら、その試行的実施を平成23年2月21日から3月5日まで、80名の希望学生から、レベルと性別を考慮しつつ、40名を絞り込み、10日間にわたって社会安全学部で行った。早稲田総研が行なう事後アンケートとは別に、本学におけるチュートリアル・イングリッシュ実施に向けた参考資料とするために、添付のようなアンケートに対する回答を学生に求めた。受講生40名のうち、31名から回答が得られた。

2. 講評

2.1 学生からのコメントの概要

実施期間中の2月28日には、午前と午後の2回にわたり、授業参観と学生からのヒアリングも実施した。授業では、4人の学生に対して1人のTutorによる指導が行われ、主として英語による学生同士のインタラクションを中心に授業が展開された。午前、午後のヒアリングで、学生たちから一様に聞かれた言葉は、「授業を通じて英語で話すことへの心理的抵抗が少なくなった」ということであった。Tutorによる指導を含め、授業全体に関する学生の評価も概ね良好であった。ただし、学生のなかには、ネイティブスピーカーとのインタラクションを期待していたため、日本人学生同士の会話に違和感と不満を持った者も若干名いた。今回のアンケート結果も、ほぼヒアリングで得た感触と同様の傾向が見られた。

Q1（授業に積極的に参加したか？）では、ほぼ全員が積極的に参加したと述べている。出席回数が評価条件に満たなかった6名が「不可（F）」の評価を受けているが、それらの学生を含め、教室の中ではレッスンに積極的な姿勢で臨んだようである。Q2（授業の分かりやすさ）、Q3（会話の機会）、Q4（課題の適切さ）、Q6（フィードバックの適切さ）については、それぞれ学生からの評価も高く、オーラル・コミュニケーション能力の涵養を目指すチュートリアル・イングリッシュの目的が達成されたと考えられる。フィードバックの適切さについて、少々評価が分かれているのは、Tutorからコメントの返ってくるタイミングや、その詳細さについて、学生の期待とやや乖離した部分があったからかも知れない。

ヒアリングでも、学生から「英語で話すことへの心理的抵抗の緩和」が挙げられていたが、チュートリアル・イングリッシュの受講を機に、「さらに英語の勉強をしたくなった」（Q8）、「将来留学をしたいと思うようになった」（Q9）という声も聞かれたことは、英語学習に対するモチベーション向上の観点から注目したい。ただし、オーラル・コミュニケーションに対する自信（Q7）については、やや学生の判断が分かれている。

チュートリアル・イングリッシュのような授業が通常のカリキュラムで提供されること（Q10）に対して、肯定的な回答が多い。また、今回のような（無料という）条件であれば、さらにステップアップ（Q11）したいと希望する学生も多いようである。一方で、受講について有料であること（Q12, Q14）、あるいは卒業所要単位になるか否か（Q12, Q14）といった条件が付されたときに、学生の反応が分かれる。有料でも卒業所要単位として認められる方が望ましいと学生が考えるのは、当然であろう。さ

らに、有料の場合の費用については、学生の意見が分かれるところである。ヒアリングでも多く聞かれた声であるが、自分の力で用意できる金額として3万円が大きな目安となるようである。ただし、卒業所要単位として認められるのであれば、高くても構わない(7万円)という見方と、安くすべきだ(1万円)という見方があることも、今後学生の費用負担を考えるうえで参考としたい。

なお、オーラル・コミュニケーション能力に対する学生の自己評価と、今回の成績伸長との相関を見るために、設問(Q16)を自由記述の形で付加した。これらのコメントだけで断言することはできないが、総じて「会話が楽しいと思えるようになった」とか「英語が口について出るようになった」といった前向きな感想を寄せた学生に、スコアの向上が見られるように思われる。あるいは、授業を通して獲得した自信が、そのような前向きなコメントにつながったと見る方が自然かも知れない。一方、もともと発音、文法、日本語への翻訳といった細かいプロセスが気になる学生ほど、成績の伸びが少ないように見える。

2.2 今後に向けて

チュートリアル・イングリッシュを受講することにより、少なくとも、オーラル・コミュニケーションの場面で、学習者の心理的障壁が緩和され、英語学習に対するモチベーションが引き上げられ、全体としてスコアの伸長が見られたと言ってもよいだろう²⁾。また、グレードが高くなるほど、成績の伸びが鈍くなることも予想されたが、準上級においても一定のスコア上

昇があり、チュートリアル・イングリッシュが一定の効果をもたらしていることは間違いない。ただし、大きくスコアを伸ばした学生もいる反面、逆に伸び悩んだ学生もいることは事実で、今後その原因等の分析が必要と思われる。さらに、40名中6名は出席不良でFの判定を受けており、その理由を明らかにし、出席率の改善に向けた方策も考えてみる必要があるだろう。

今回は、試行的授業ということで、学生への費用負担をなくし、十分スペースを確保することのできる社会安全学部で、通常授業終了後の2月、3月を利用しての実施となった。しかも、40名という限られた人数での試行であったため、今後

①規模を拡大し、千里山キャンパスでも実施し、

②学生に一定の実費負担を求め、

③卒業所要単位として認めるか否かを論ずる場合、スペースの問題、学生応募人数の予測、そして外国語教育としての位置付けを論じる場所と、その手続きの方法など、クリアすべき問題が多く残されている。一方で、今回の試行的実施からも見えてきたように、オーラル・コミュニケーション能力の伸長を図る際に、チュートリアル・イングリッシュは一つの効果的な方策として考慮に値すると思われる。また、社会安全学部からは今後継続的にチュートリアル・イングリッシュを実施したいとの強い要望が寄せられており、本格的な実施を目指して、議論を深めていきたいところである。

学生へのアンケートの詳細については、以下のデータを参照されたい。

データ (回答者数 31名)

今回の Tutorial English を受講された感想を中心にうかがいます。該当する番号でお答えください。

5：強くそう思う 4：そう思う 3：どちらともいえない

2：そう思わない 1：強くそう思わない

	項 目	5	4	3	2	1
Q1	2週間にわたる Tutorial English の授業には積極的に参加しましたか？	23 (74%)	4 (13%)	0 (0%)	4 (13%)	0 (0%)
Q2	Tutor による授業は分かりやすかったですか？	21 (68%)	8 (26%)	1 (3%)	1 (3%)	0 (0%)
Q3	授業の中で積極的に英語が使えましたか？	23 (74%)	7 (23%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)
Q4	授業以外に出された課題の内容と分量は適切でしたか？	12 (39%)	15 (48%)	4 (13%)	0 (0%)	0 (0%)
Q5	いまの自分の英語運用能力にあったクラスに配属されていましたか？	16 (51%)	12 (39%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)
Q6	Tutor からのフィードバックは学習を進めるうえで参考になりましたか？	18 (58%)	9 (30%)	2 (6%)	2 (6%)	0 (0%)
Q7	英語で、オーラル・コミュニケーションをすることに自信がつかえましたか？	12 (39%)	14 (45%)	4 (13%)	1 (3%)	0 (0%)
Q8	Tutorial English を受講して、もっと英語の勉強（全般）をしてみようと思うようになりましたか？	21 (68%)	7 (23%)	2 (6%)	1 (3%)	0 (0%)
Q9	Tutorial English を受講して、将来英語圏に留学（短期、中期、長期どれでも）してみたいと思うようになりましたか？	16 (52%)	5 (16%)	7 (23%)	1 (3%)	2 (6%)
Q10	Tutorial English のような授業が、通常の英語の授業（英語Ⅰ～Ⅳ）でも受けられたらよいと思いますか？	23 (75%)	4 (13%)	2 (6%)	1 (3%)	1 (3%)
Q11	今回のように無料であれば、次のグレードの Tutorial English を受けたいと思いますか？	26 (84%)	3 (10%)	1 (3%)	0 (0%)	1 (3%)
Q12	卒業所要単位には認められなくて、有料でも Tutorial English を受けたいと思いますか？	2 (6%)	13 (42%)	8 (26%)	3 (10%)	5 (16%)
Q13	Q 12 で「5. 強くそう思う」、「4. そう思う」と答えた方に尋ねます。実費では10万円の費用がかかるとして、どの程度の負担であれば妥当な金額だと思いますか？具体的な数字をお書きください。	5万円	4名	3万円	8名	
		3万円まで	1名	2～3万円	1名	
		2万円	5名	1.5万円	1名	
		1万円	2名	0.5万円	1名	
Q14	卒業所要単位に認められるならば、有料でも Tutorial English を受けたいと思いますか？	14 (46%)	8 (26%)	6 (19%)	1 (3%)	2 (6%)
Q15	Q 14 で5. 強くそう思う」、「4. そう思う」と答えた方に尋ねます。実費では10万円の費用がかかるとして、どの程度の負担であれば妥当な金額だと思いますか？具体的な数字をお書きください。	7万円	1名	5万円	4名	
		3万円まで	1名	3万円	7名	
		2万円	3名	1万円	5名	
		0.5万円	1名			

自由記述

Q 16. Tutorial English を受講して、自分の、オーラル・コミュニケーション能力が、どの程度伸長したと思いますか？簡単に自己分析してみてください。

級	コメント	幅	点数
初級	口語的な表現とか、話し相手への受け答えのしかたとかを吸収できて伸びたと思う。リスニングはまあまあ伸びました。	25	569 → 594
	いいたいことが言えるようになった。	7	476 → 483
	日常生活で実際に使う多少の口語表現と正しい発音の仕方が身についたと思います。	-22	632 → 610
	自分に身につけていない英単語がその場でわかり、その場で実際に使うため身につくのが早く、簡単な会話は外国人が相手でも委縮することなく話せるようになったと思います。		不受験
	初めは英語で話すことに戸惑いや恥ずかしさがあったが、同じクラスの人や先生もみんな英語を話すのでとても自然に英語を話すことができたし、また話すことに面白さを感じる事ができた。	104	410 → 514
	3時間も英語で喋っていたことがなかったので疲れる部分もありましたが、とても楽しかったので、毎日3時間はあつという間に過ぎました。英語で話すのは、話の相づちの打ち方から全然違って、最初は慣れなかったけど、毎日喋っていると少しずつ慣れてきました。筆記とは違って、話す場合は動詞の変化など細かいことを咄嗟に頭で考えて喋らないといけないので文法がぐちゃぐちゃになっていましたが、これも毎日英語を使っていると自然に気をつけられるようになりました。会話をしていると語彙力も勝手に身に付いてきました。レッスンごとの先生からのコメントもとてもためになったし、Final Review Sheet では、これから英語を勉強するにあたっての自分に必要なサイトなどまで教えてくれてとても役に立ちました。英語を喋ることも楽しいと思え、もっと喋られたらもっと楽しいだろうなと思うと、これから英語を勉強していく意欲がわきました。	8	571 → 579
	日常会話で使える会話表現をいくつか覚えることができた。少しは英会話の能力は向上したと思う。	-11	492 → 481
	英語をしっかりと口に出して話すということ自体にあまり抵抗がなくなったことは大きかったと思う。ここから文法などより考えられるようにしたいと思う。		不受験
	ある程度の会話表現やあいづちも学べたので、英語を話すことがとても楽しいと感じることができ、さらに英語を勉強したいという思いが増しました。	1	493 → 494
	簡単なあいさつは、自己紹介、日常の一言など簡単な表現ながらなかなか言葉として口に出すのが難しかったけれど、今は何の抵抗もなく口から自然と出るようになった。	115	480 → 595
級	最初はまともに英語が話せない状況であった。しかし、担当の先生と毎日英語で会話しているうちにそれに慣れてきて、だんだんと英語で自分の言いたいことを話せるようになってきた。今回のような機会のおかげで自分の英語能力が磨けたと感じた。	31	473 → 504
	英語でのコミュニケーションに自信つき、関心も高まりました。	-24	546 → 522
	すらすらと使いたい英単語が出てきた。あと、人の話を聞いている際にも、英語で相槌をしたりと自然に英語が口から出てくるようになった。	43	375 → 418
	英語の発音が、たどたどしいかったが、少しは改善された。積極的に英語を使えるようになった。英語での会話が楽しいと思えるようになった	131	488 → 579
	相手の会話に対して日本語に翻訳などしてから訳して英語話していましたが、相手の会話を聞いてそのまま英語で考え英語で話すということも少しずつではありますができるようになりました。	-8	439 → 431
	教科書の内容の表現の他にも、例えば「ちがう」「ちょっと待って」などのちょっとした言葉でも英語の表現を学び、簡単な英会話でも英語を少し勉強したとわかる会話ができるようになったと思う。	97	483 → 580

	自分が言いたいことを簡単な英語を使って話せるようになりました。その際に、自分がわからない単語などがあれば例えを使って話をするとコミュニケーションが図れることが実感することができました。ありがとうございました。		不受験
	自分の言いたいことを英語で相手に伝えたいという気持ちが増し、それを実行するための単語能力ものびたと思います。	48	507 → 555
	自然な会話ができるようになった。また、少し長い会話も多少できるようになった。	107	430 → 537
	楽しかったと思います。		不受験
	英語を話すことに恥じらいを感じなくなった。		不受験
	会話に対するレスポンスなどが今回の講義を受けて、身についたし、自分の言いたいことがある程度伝えられるようになったと思う。	21	523 → 544
	Tutorial English を受講するまでは、英語で話す前にどんな単語や文法を使えばいいか、その都度考えていた。けれども、受講した後では考える沈黙の時間はなく、とりあえず何か言葉を発しようとする積極的な姿勢になった。また、今までは英文を読むのに一つ一つ単語の意味や文法を確認していたが、今は大まかに文意を把握できるようになって、英文を読むペースが以前より速くなった。またこれらに加えて、受講したことによって、もっと英語を堪能にするために勉強に力を入れようという気持ちや国際交流を活発にしたいという思いが生まれた。受講して、本当に良かった。またこのような機会があれば是非参加したい。	-8	590 → 582
準 中 級	英語を話すことに関する躊躇いや不安は軽くなったと思います。拙い語彙でも通じることはわかったし、さらに基本として今回の授業のように意見を述べる時に使うと良い表現などを学ぶことによって、より、オーラル・コミュニケーションへの苦手感は軽減しました。ですが、生徒同士での英語使用による会話ばかりだったので、はっきり言ってこれで留学とかそういう物は見えませんでした。ただ、誠意を持って話せばコミュニケーションはできる、ということが分かっただけです。ですが、受けないよりは受けて良かったと思っています。ずっと英語ばかりで話すことの大変さとか、考えるべき事などをチューターの先生も丁寧に教えて下さったし、他にも色々なことを学びました。大変有意義だったと思っています。こんな機会でもなければ、自分の英語の力を使うことも測ることもありません。自分の英語の勉強に対する見直しもできたので、よかったです。	34	583 → 617
	コミュニケーションに対しての恐れが無くなりはしたものの、実際にネイティブの話す英語が聞き取れるとは思えず、また、文法（簡単な会話の中での）もあまり身についたとは言い難く、不安が残る。	-5	597 → 592
	受講前は、英語で話すということに少し抵抗がありましたが、いざ始めると、英語で話さなければならない状況に置かれたので自分から積極的に話すようになりました。そして、日を重ねる毎に自然と自己主張ができるようになり、その中でどのような表現が自然かなどをチューターの方に指導してもらえました。受講後は自分の意志を簡単な表現ではあるものの、伝える程度にはなったと思います。	6	602 → 608
中 級	Active listening がよくできるようになったと思います。つまり、英語圏の人の姿勢に近い形で会話ができるようになりました。	21	599 → 620
	これを受講してから日常でも英語が出そうになることがある。2週間だけでもかなりの効果や成長を実感できた。何よりも大きかったことは、英語を話す恥ずかしさや間違える恥ずかしさが全くと言っていいほど無くなったことだった。		不受験
	今まで知らなかった英語の言い回しが大分わかるようになったのでとてもよかった。機会的な英語力でなく、実質的な英語力が身についたと思う。		不受験
	物事を考えた説明しようとするときに、まず英語で思いついたり、単語を考えたり、英語ベースの思考になった。	46	625 → 671
準 上 級	受講中は、英語で考えている自分がいる、ことを気づくことがありました。また、日常の中で、これは英語でどう表現するのかを考える機会が増えた。いままでにはなかった不思議な気分です。なんとなく、自然に英語が口に出る（ちょっとしたことですが）ことがあります。	46	500 → 546

Part 2

3. 英語の学習全般について

今回のチュートリアル・イングリッシュ講座の実施にあわせて、受講者に対して英語の学習全般についてもアンケートを実施した。具体的な質問項目と結果については、この章末のページを参照されたいが、ここでは回答をもとに英語学習全般へのコメントを記しておきたい。

3.1 読む・書く・話す・聞く (4 領域)

チュートリアル・イングリッシュを受講して、オーラル・コミュニケーション能力をブラッシュアップしたいという学生たちだけに、まずは「話す」ことを苦手な分野として挙げていることは十分に頷けるし、一般的な大学生の傾向とも一致するだろう。その「話す」ことについて、自由記述からは、学生たちが二つの側面から捉えていることがわかる。一つは、日常生活の場面で不自由なく英語が操れること。もう一つは、ビジネスやアカデミックな文脈で適切な言い回しを使って意思伝達ができることである。

同じ「話し」言葉であっても、たとえば家族と友人との間で交わす言葉遣いと、先輩、上司、先生に話しかけるときの言葉遣いには、違いがあっても不思議ではない。あるいは、学内や社内のプレゼンテーションで用いる言葉遣いは、もちろん「書き」言葉であっては困るが、家族・友人・先輩・上司・教師に語りかけるときの言葉遣いとも必然的に異なることが予想される。そのように、場面や文脈ごとに要求される(ある程度パターン化された)言葉遣い(言い回し)を、ESP (English for Specific Purposes) 教育では、ジャンル (genre) と呼び (Dudley-Evans & St. John (1998)), 学習者が将来予想されるニーズを睨みながら、ジャンルの違いと特徴をしっかりと習得することを求めている。学生が

イメージしている、「話す」ことに関わる二つの側面を、このジャンルと重ね合わせると、概略次のようになる。

[[話し]の二つの側面]

- 日常会話
 - インフォーマル
 - フォーマル
- プレゼンテーション
 - ビジネス
 - アカデミック

要は、項目それぞれがジャンルを構成していて、そこには語彙はもちろんのこと、繰り返し用いられる談話展開のパターンが存在するということである。したがって、オーラル・コミュニケーションという側面を掘り下げていくと、学習者はそれぞれのジャンルに特有の言い回しや展開法を、個々のニーズに応じて(少なくとも)重点的に体得する必要がある。教育を提供する側から言うと、すべてのジャンルに注目するのか、特定のジャンルに絞って教育を展開していくのか、あらかじめ明確にしてカリキュラムを構築することが理想であろう。たとえば、大学4年間にすべてのジャンルを網羅することは不可能であり、社会安全学部では言語のスペシャリストを育成することが目標とはなりえないので、学問領域や学生の将来のニーズを考慮しながら、いくつかのジャンルを選び出し、そこに焦点を当てた学習活動を促すことが現実的なところかと思われる。

やや回り道をしたが、そもそも大学の英語教育が「日常生活の英語」の習得を目指すのか、「ビジネス・アカデミックな英語」の習得を目指すのか、ジャンルの抽出とともに、いま少し議論を深める必要のあることは確かであり、研究者の間でも近年とりわけ関心の高まりつつあるESP (English for Specific Purposes) 教育の真髄とも関わりのあることを、ここで指摘してお

きたい(寺内他(2010)). そのいずれを目標とするにせよ、英語を使って口頭でコミュニケーションを図ることに対する心理的抵抗感や違和感を払拭することは、英語運用能力を高めるための「第一歩」と言える。その意味において、学習することの楽しさとともに、英語で意思伝達が出来ている自分を実感できたという学生からの評価からは、チュートリアル・イングリッシュが一定の効果をあげているとみてよいだろう。

3.2 英語学習について

今回のアンケートでは、大学の授業以外に、どれくらいの頻度で英語を学習しているかを問うた。この問いに対して、「まったくしない」、「週に1~2日程度」という回答が全体の9割を占めた。ある程度予想されたこととは言え、外国語を習得する場合、短い時間であれ、毎日学習を続ける方が望ましいことを考えると、学習者の方向付け(オリエンテーション)が足りないのではなかろうか。ある報告によると、平均的な大学卒業生が企業において一人前に英語で仕事が出来ようになるためには、さらに1,000時間の学習が必要という。この1,000時間を卒業してからではなく、大学在学時にこなしてしまうためには、1日に45分程度の学習を365日×4年間繰り返す必要がある。週に1~2日程度で、この時間数をクリアしようと思うと、1回の学習時間数はいきおい多くなりマネージしにくくなるし、思い出したように外国語の学習をすることが非効率的であることは、誰もが経験しているところであろう。

また、英語を勉強する際にもっともよく使う辞書を問うたところ、回答者のほぼ100%(1人の例外あり)が英和辞典だと答えている。もちろん、学習者のレベルにもよるが、もっと英英辞典への依存度を高めたいところである。いつまでも、日本語から英語への変換に頼っている

と、英語の語彙や表現に付きまとう語感のようなものを肌で感じ取ることができない。ましてや、今回のようにネイティブ講師のもとで学習を進める際には、インプットが終始英語で行われるわけで、それをダイレクトに英語で消化して、英語でアウトプットすることが肝要で、英和辞典では間に合わないことを実感した学生も多かったのではないか。残念ながら、私たちにとって英語は外国語であり、どこまでも学習者であることを考えると、辞書はそのための重要なリソースである。学習者の方向付けを適切に行うことが大きな課題と言えそうだ。

なお、英語の運用能力を身につけるに際して、もっとも大切な要素として、「学習者の心構えと学習法」をあげている学生が一番多く、「適切な指導者と指導法」がそれに続く。教師からレクチャーを受けるという受身の姿勢ではなく、みずから積極的に働きかけて英語を学習すべきだという認識は、学生の意識のなかにあることが察せられる。この認識に加えて、先にのべた継続性が重要だという意識、そして辞書をはじめとするツール活用の知識は、それぞれの学習者が(中学校、高等学校での)経験を通じて何らかの形で持つに至っていると予想される。問題は、それら(認識、意識、情報)を常に頭の中でリンクさせる作業、いわば内省を繰り返しながら、学習を進めていく習慣を各自が確立していくことなのである。母語については、そのことを意識せずとも身に付くことは私たちが経験上知っていることである。一方、そのような内省プロセスを介在させなければ言葉が頭に定着しにくい点が、外国語習得が母語習得と大きく異なる点といえる。

3.3 専門教育、キャリアとの関係

今回の試行的実施が、本学に設置されたばかりの社会安全学部第1期生を対象にしたことも

あって、英語に対する意識の高さも浮き彫りになった。学部の教育を受けるにあたって、あるいは将来、どの程度英語の会話力が必要かとの問いに対して、回答者のうち9割の学生が「必要」と答えている。また、キャリアとの関連でも、9割の学生が英会話が必要とされる職に就きたいと考えているからである。自由記述によるアンケートにも、英会話力を仕事に活かしたいという趣旨のコメントが多く寄せられていることにも注目したいところである。第1期生に見られがちな進取の姿勢と積極性に相俟って、「英語は大切だ」という、講義を通じた教員からのメッセージも、ポジティブな認識形成に役立っているのではないと思われる。

3.4 留学について

昨今、日本人学生が留学をしたがらない、あるいは企業でも若手社員が海外勤務を回避したがる、いわゆる「若者の内向き志向」がよく話題になる。今回、オーラル・コミュニケーション能力のブラッシュアップに重きをおいたチュートリアル・イングリッシュの受講生に対して、在学中の留学（短期・長期）希望についても尋

ねてみた。その結果、短期語学研修（1ヶ月）に対しては、比較的関心が高いものの、交換派遣留学（1年）については、「したい」と「したくない（どちらともいえない、を含む）」との割合が拮抗する結果となった。オーラル・コミュニケーション能力アップへの興味が、必ずしもストレートに留学への関心にはつながらないようである。ちなみに、全学的な傾向として、交換派遣留学は、クリアすべき TOEFL の得点が高いこともあって、学生にとって少々敷居が高いのに対して、短期語学研修や1セメスターを単位とする中期留学は学生のニーズが高いという現象も見られる。若者の内向き志向の背景には、社会の経済状況も多分に考慮すべき要素であるが、その一方で、学生の関心事である就職活動と、どのように折り合いをどうつけるかという問題もあり、留学へのモチベーションアップには、オーラル・コミュニケーション能力の向上とは別に、大学をあげての指導・支援が必要ということであろう。なお、アンケートの詳細については、以下のデータを参照していただくとして、本稿を結ぶことにする。

データ（回答者数 24名）

英語の学習全般についてうかがいます。該当する項目に○を入れてください。

	質問項目	選択肢	回答数
Q1	あなたは、英語の運用能力について、どの分野が一番得意ですか？	読む	18 (75%)
		書く	1 (4%)
		話す	1 (4%)
		聞く	4 (17%)
Q2	あなたは、英語の運用能力について、どの分野が一番苦手ですか？	読む	0 (0%)
		書く	4 (17%)
		話す	14 (58%)
		聞く	6 (25%)
Q3	あなたは、自分の英会話力について、どのレベルだと思いますか？	初級	16 (67%)
		準中級	4 (17%)
		中級	2 (8%)
		準上級	2 (8%)
		上級	0 (0%)

Q4	あなたは、大学の授業（予習・復習）以外に、どれくらいの頻度で英語の勉強をしていますか？	まったくしない	10 (43%)
		週に1～2日程度	11 (48%)
		週に3～4日程度	2 (9%)
		週に5～6日程度	0 (0%)
		毎日	0 (0%)
Q5	あなたが英語の勉強をする際に、もっともよく使う辞書は何ですか？	英和辞典（電子辞書を含む）	22 (96%)
		和英辞典（電子辞書を含む）	0 (0%)
		英英辞典（電子辞書を含む）	1 (4%)
		その他	0 (0%)
		辞書は（ほとんど）使わない	0 (0%)
Q6	あなたは、英語の運用能力を身につけるのに、最も大切な要素は何だと思えますか？	すぐれた教材や機器	0 (0%)
		適切な指導者と指導法	7 (29%)
		学習者の心構えと学習法	13 (54%)
		もって生まれた才能	1 (4%)
		その他	3 (13%)
Q7	あなたは、大学在学中に本学主催の語学セミナー（英語圏約1カ月）に参加したいですか？	とてもしたい	7 (32%)
		したい	9 (40%)
		どちらともいえない	2 (9%)
		あまりしたくない	3 (14%)
		まったくしたくない	1 (5%)
Q8	あなたは、大学在学中に交換派遣制度（英語圏1年）に参加したいですか？	とてもしたい	4 (17%)
		したい	7 (30%)
		どちらともいえない	5 (22%)
		あまりしたくない	5 (22%)
		まったくしたくない	2 (9%)
Q9	（Q8で、「あまりしたくない」、「まったくしたくない」と答えた方に）交換派遣制度を利用したくない主な理由は何ですか？	経済的な余裕がない	4 (66%)
		語学力に自信がない	0 (0%)
		異文化に適応する自信がない	1 (17%)
		海外で生活するのが怖い	0 (0%)
		その他	1 (17%)
Q10	あなたは、今回の講習で自分の英会話力がどれほど向上すると期待していましたか？	とても期待していた	8 (37%)
		期待していた	10 (45%)
		どちらともいえない	4 (18%)
		あまり期待していなかった	0 (0%)
		まったく期待していなかった	0 (0%)
Q11	あなたは、自分の将来には英会話力がどの程度必要になると考えていますか？	とても必要になる	11 (48%)
		必要になる	10 (43%)
		どちらともいえない	2 (9%)
		あまり必要にはならない	0 (0%)
		必要にはならない	0 (0%)
Q12	社会安全学部での勉強には、英会話力はどの程度必要だとあなたは思っていますか？	とても必要だ	7 (30%)
		必要だ	13 (57%)
		どちらともいえない	0 (0%)
		あまり必要でない	2 (9%)
		必要でない	1 (4%)

Q13	あなたは、英会話力が必要とされる仕事に就きたいと考えていますか？	就きたいと考えている	4 (18%)
		どちらかといえば就きたいと考えている	10 (45%)
		どちらともいえない	6 (27%)
		どちらかといえば就きたいとは考えていない	1 (5%)
		就きたいとは考えていない	1 (5%)

自由記述

Q 14 あなたは将来、自分の英会話力をどのようなことで活かしたいと思いますか？

級	コメント	幅	点数
初級	コメントなし.	25	569 → 594
	仕事につなげていきたい.	7	476 → 483
	生かしたいというより、自分のできる仕事の幅を広げたいと考えています.	-22	632 → 610
	コメントなし.		不受験
	海外で多くの外国人と話して、他国の文化などを学びたいと思う.	104	410 → 514
	英語力が必要な仕事に就きたいので、職場で普通に英語で話せて、国際的な場でも難なく仕事をこなせるようにしたいです.	8	571 → 579
	会社内で海外の方と話す時や、海外にいった時など	-11	492 → 481
	仕事で活かせるくらいになりたいと思う.		不受験
	海外旅行などに行っても、それほど困らないようにしたいです。また困った時に地元の人に質問できる英会話力を身につけたいです。チュートリアルイングリッシュを受けて英語を話すことの楽しさや重要性を学べて本当によかったです。この講義のおかげで英語を勉強したいという思いがとて大きくなりました。	1	493 → 494
	仕事で必要とされる以上に、自分の「視野」を広げるために英会話というものに挑戦していきたいと思います。	115	480 → 595
	将来自分が勤める企業で、英語を使って説明するときに英会話を生かしていきたい。	31	473 → 504
	旅行や映画はもちろん、仕事にも生かしたいです。	-24	546 → 522
	レポートを書く際に海外の文献を読む際に使いたい。また、海外のテレビ（ニュース番組）や新聞を見て自分の知識を上げるために活かしていきたい。	43	375 → 418
	町で外国人に道を聞かれたら答えられる。	131	488 → 579
	今後の就職した際に英語を生かして、仕事をこなしたり海外に住んでみたいというのもあるのでよりスピーキングのスキルの向上をはかりたいと思います。	-8	439 → 431
	海外旅行での英会話だけでなく、ビジネスでも使えれば十分だと思う。	97	483 → 580
	コメントなし.		不受験
	自分のしたいこと、伝えたいことを正確に伝えることができ、世界の人と意見を共有できるように生かしたい。	48	507 → 555
	コメントなし.	107	430 → 537
	コメントなし		不受験
コメントなし		不受験	
まだまだ外人とすらすら会話することはできないので、大学生の間に英語力を鍛えて、いざ外人と会話する時に、詰まらずに会話できるような能力を付けたい。	21	523 → 544	

準 中 級	私は、特に英語圏の外国人の人達の感受性や思想にとっても共感を得ている。なので、多くの人と交流をしたいと思っている。また将来、外国人と関わりを持ちながら共に仕事をしたい。なので私は、コミュニケーションの一つとして、今後英会話力を生かしていきたい。	-8	590 → 582
	この国際化の時代に英語が使われないことはないと思っています。英語ができればどのような面においても情報を得やすいでしょうし、仕事だけでなく私生活でもそこそこ使え、生かせるようにしたいと思っています。すでに翻訳されたもので意識もあるでしょうし、コミュニケーションにおいても英語が出来た方が世界が広がると思っています。生活に英語も組み込めたらいいなと思っています。	34	583 → 617
	コメントなし	-5	597 → 592
中 級	仕事で生かしたいとまでは考えていないものの、英語圏で日常生活で使用されている表現程度は身につけたと思っています。	6	602 → 608
準 上 級	意見をはっきり言えるようになることが英会話力の基本なので、人をひっぱっていけるような発言力として活かしていきたいと思います。	21	599 → 620
	コメントなし		不受験
	私たちは社会安全学部ということもあり、私たちが大学で学んだ皆があまり知らないような知識を伝えていきたい。		不受験
	英語を話せることで、視野を広げて、国際的な社会に対応していけるようになりたいです。	46	625 → 671
	卒業論文を英語で発表する際の、質疑応答をイメージしています。 自由研究論文を英語で記述、発表する際の質疑応答に支障がない英会話力が必要（専門用語に対する、知識やバックグラウンドを習得する必要）	-40	636 → 594

注

- 1) 本研究は、平成22年度関西大学特別研究・教育促進費等において、『研究課題「英語によるコミュニケーション力向上のためのプログラムにかかる「パイロット授業」の実施』として研究費を受け、その成果を公表するものである。
- 2) 早稲田総研から提出されたデータについて、「新奇性」や「はずれ値」の問題があるかも知れないとの指摘があることも併記しておく。

参考文献

- [1] Dudley-Evans, T, and M. J. St John (1998). *Developments in English for Specific Purposes*. Cambridge: Cambridge University Press.
- [2] 寺内一, 山内ひさ子, 野口ジュディー, 笹島茂 (編) (2010). 「21世紀のESP—新しいESP理論の構築と実践」. 東京:大修館書店.

(原稿受付日: 2012年2月23日)